

北海道岩見沢農業高等学校における 地域と連携した木育の推進について

北海道岩見沢農業高等学校 木育班

研究の背景・目的

本校で設定している教育課程のうち科目「課題研究」では、地域の諸課題を解決することを通じて、考察する力を養うとともに、実践的・体験的な学習を目指しています。そして、本校森林科学科では全4つの専攻班のうち令和2年度から「木育専攻班」を立ち上げ、「木育」という手法を活用したプロジェクト学習を行っています。

本研究の柱は、2004年に全国に先駆けて北海道から始まった「木育」を広く地域に広めていきたい、との願いから、人々の暮らしに「木」を利用・活用する機会があれば、高齢化や担い手不足が著しい林業従事者の構造改善に繋がるのではないかと考えています。

今年度は、岩見沢市内にある保育園との連携強化をうとともに、同じ空知地域との木育に関わるコラボレーション教材の開発に挑戦しました。

研究の内容・成果

第1 岩見沢市内にある保育園との連携を通じた体系的な木育プログラムを確立しよう

社会福祉法人めぐみ学園日の出保育園との連携は5年目を迎え、木育を通じた自然体験活動の教育的効果の高さは「教える側」の高校生と、「教わる側」の園児双方にメリットがあると手応えを感じています。

そして今年度は今までの活動を発展させ、より園児が主体的に取り組むことのできる木育プログラムの活動を実践しました。

<第1回>

ヒノキ単板の名札づくり&森で聞こえる「音」クイズ

今年度の対象クラスは年長(5歳児クラス)18名を対象に、木育を中心とした自然体験学習に取り組みました。ヒノキ単板を使用した名札づくりは、園児が年少、年中のころから、その年の年長園児が作成している様子を見ていたため、特に高校生が説明をすることなく、それぞれが個性的な名札を完成させました。また、「音」クイズでは、林内に生息する動物を中心に、音から聞こえる動物の大きさや種類などをイメージさせてから答え合わせを行うことで、驚きと発見が連発しました。



写真1 第1回体験活動の様子

<第2回>

森の中にあるイロイロを探そう！

2回目の活動は保育園を飛び出し、本校の見本林に招いて開催しました。公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会で作している「たんけんルーペ」を活用し、森の中にある“色”に注目したネイチャーゲームを実践しました。ゲーム終了後には、私たちがチェーンソーの実演を行い、玉切りした林木の円板を見て、「ザラザラしてる！」や「ベタベタする！」の反応や「良い匂いがする！」といった声が林内に響きました。

<第3回>

世界にひとつだけの貼り絵を完成させよう！

最後の活動では、私たちの月形町演習林から採取した枝葉や実、種を用いた貼り絵制作をしながら、まとめの学習を行いました。制作前には林産物が冬眠前の動物にとって大切な食料源であることを説明し、冬の森の様子を学んでもらいながら作品が完成しました。



写真2 第3回体験活動の様子

第2 地元企業とのコラボレーションをした、岩農版木育教材を制作しよう

コラボ教材のパートナーには同じ空知地域にある日本理化学工業様が開発した、ガラスに書いて消せるチョーク“キットパス”に協力を依頼しました。“どこでも描けてどこでも消せる”という利点を生かし、私達がチェーンソーで実際に伐倒した、匂いの特徴のある樹種「トドマツ」を活用するクレヨンボードを教材化にすることを決め、キットパスが繊維に沁み込まないように塗膜試験も行いながら完成しました。



写真3 クレヨンボードの体験